

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 長良特別支援学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和4年11月15日(火) 13:00～15:00
- 3 開催場所 長良特別支援学校プレイルーム
開催にあたり、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者

会 長	竹村 真紀	長良医療センター主任児童指導員
委 員	山本 るり子	長良緑町自治会代表 (欠席)
	島崎 喜代美	長良東公民館主事 (欠席)
	土屋 雅哉	P T A会長
	臼井 裕子	P T A副会長
	安藤 由美子	長良園芸
	佐藤 美佐恵	Man to Man Passo 岐阜校管理者
	菊池 俊哉	光陽福祉会会長
	下平 悦子	長良医療センター医療社会専門員
学 校 側	広井 隆司	校長
	井上 真典	教頭
	伊藤 友弘	事務長
	佐野 幸弘	小学部主事
	不破 明美	中学部主事
	河田 恭子	高等部主事
	松原 智和	教務主任
	寺澤 康德	キャリア支援部長
	高見 朋宏	防災環境部長
- 5 会議の概要(協議事項)
 - (1) 学校全般について
 - ア コロナ感染予防対策について
 - イ 行事活動の実施について
 - (2) 各活動の報告について
 - ア 各部(各年代)の課題について
 - イ 「キャリア支援部 活動報告」について
 - ウ 「防災環境部 活動報告」について
 - エ 「教育活動に関するアンケート」集計結果について

(3) 授業参観

意見1：初めて校内に入り、児童生徒の授業を参観することができた。今後も児童生徒の様子をぜひ参観できる機会があるとよい。

意見2：学校がいろいろな想定をして活動していることが分かった。だが、防災面について気になる。防災士の方からは、避難できない場合や滞留ということも考えておかなければならないと言われている。東京都は条例で「企業は三日間の備蓄品を準備するように」と要請することとなった。自衛隊の救援が行き渡るまでに三日はかかるといったことから要請である。学校においては、先ず「人確保」についてである。有事のときに必要な数だけ看護師の確保ができるか懸念がある。もう一つは、「防災設備」についてである。5時間という時間の電源しかないとのこと。人工呼吸器を利用している児童生徒たちがいる。長良医療センターとの連携はどうなっているのか。学校としてどれだけ自分たちで対応できるか。外部の専門家の方に具体的に診断をしていただき、改善点をはっきりさせておくとうまい。長良川を越えて通学している場合、学校へ迎えに来られない場合もあり、すぐに保護者に引き渡せないことも想定される。長いスパンで計画を立てておくことが大切である。

⇒（防災環境部長）食糧の3日分の備蓄は職員も準備している。電源に関して、昨年度、当校と長良医療センターとの間で、有事の際にはご協力いただくことの締結をしている。

防災士等の専門家に確認を依頼する件については、早速検討していきたい。

意見3：コロナ対策の影響で教員と話し合いがうまくできていない。知りたいことを知りたくても、話したいことを話したくてもなかなかできない状況である。そのため、なかなか先が見えなくて不安である。感染対策は必要であるが、学校と保護者とでもう少し連携をとってけるとよい。

⇒（キャリア支援部長）常にアップデートされた会話が必要である。関わる時間・まめな連携が大切であり、そのときにどう思っているのかを伝え合うためには、懇談の時間よりも送迎のタイミングの方が良いこともある。また、相談の内容によっては、校内だけでは解決しないことも多い。子ども相談センターや相談支援専門員、事業所等と速やかに連携して動いていきたい。

意見4：久しぶりに授業の様子を参観した。信頼関係あつての様子を見させてもらった。「チーム学校」として捉えるとき、コミュニケーションが大切。チームとして成長していくには、個々の力が大事。自分自身が整っていないとうまいいかない。まずは個々、そして家族、そして職場、地域とつながっていく。先日「保護者とのコミュニケーションを大切にしていきたい。学校で何かできないか？」という連絡をいただき、「花活」を行った。親子でも一緒に花を介して癒やせる。趣味の時間、自分が好きなことで自分を癒やしてあげる時間があると人間関係により影響が見られる。そのような時間が生活の中にあるとよい。

意見5：これまで、運営協議会にはオンラインでの参加だったので、今回校内には初めて入る。地域とのつながりということでは、自分たち事業所としても学校と同様、地域連携を大切に、喜んでいただきたいと考えている。

意見6：学校運営協議会は、委員の意見を聞いて、それを学校の中に取り入れていくことが主旨である。今回は学校からの報告が多く意見を交わす場がなかった。先程、委員の意見で、就労や

生活介護等、悩んでいる人たちがたくさんいるということや「防災について、学校の対策に専門家の意見は入っているか」等の貴重な発言があった。この場では、このような意見に対して「次年度、専門家を運営委員会のメンバーに入れてはどうか」などの、子供たちのためになることを話し合うべきである。今後、この会が報告の場でなく、学校課題等をオープンにして明日の児童生徒たちにつながる会としてほしい。

意見7：長良医療センターでは、病院を退院していく生徒の連携や医療的ケアの内容が変わっていくときに学校の教職員と関わり、学校や長良医療センターでの様子や保護者に伝えている内容の情報共有をしている。学校在籍している間は大丈夫だが、卒業後の支援について学校と連携しつつ病院側も一緒に考えていきたい。

6 会議のまとめ

- ・「小学部から高等部に至るまで、それぞれの年代でどのような力をつけさせたいか」ということについて各部から説明をした後、廊下から授業参観の時間をとったことで、学校での児童生徒の様子や指導の状況について理解を得ることができた。
- ・キャリア支援について、生徒の卒業後の生活についての不安や、それに対する学校の進路指導・支援体制について意見を得た。今後は更に、生徒に軸足を置いた進路指導の在り方について研究を進めていく。
- ・非常変災時対応では、例えば停電時における非常電源の使用可能時間の検証や緊急時における児童生徒の保護者へ引き渡し方法についてなど、具体的な事案について専門家等の意見も聞きながら対策を検討していく。
- ・学校運営協議会の在り方について、今回は学校からの報告が多く、委員の方から意見を得る場が少なかった。次回からは、予め本校の課題を具体的に明確にし、委員の方からより多くの意見を得るとともに、よりよい学校づくりに向けて検討していく場としていく。